# 授業科目及び履修方法

1　授業科目表 …… 138

(1)　人文科学専攻 …… 138

2　履修上の注意 …… 141

3　修士論文の作成等について …… 141

# 人文科学研究科　３つのポリシー

## 【人材育成の目標】

専攻分野における専門的知識・技能の伝授と研究力鍛錬によって修士論文作成を完成させ、当該分野の専門研究に参加できる人材の養成を、教育の核とする。併せて専門性を支える教養や実社会で求められる実践的能力を修得させ、現代社会の諸問題に主体的に対応できる人材を育成することも、主要目標とする。

## 【ディプロマ・ポリシー（修了認定及び学位授与の方針）】

所定の単位を修得し修士論文を完成させるなかで、人文科学分野全体を見渡す広い視野と自らの研究課題を見つけ出す鋭敏な問題意識、そして課題に粘り強く取り組んで解明を目指す探求力を備え、かつ下記の諸能力を身に着けたと認められる学生に、文学修士の学位を授与する。

１．研究に関わる情報を十分に収集し、適切に整理する能力
２．収集・整理した情報を分析して、問題の所在を把握する能力
３．多方面から、主体的かつ柔軟に問題解決を試みる能力
４．自らの問題関心や研究成果を、適切に外部に発信できる能力

## 【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）】

学位授与のために要求される多様な条件を満たすため、下記の２分野からなる教育課程を編成する。

１．言語・文化・歴史探求分野
２．表現・実践・歴史活用分野

このうち１は、修士論文作成指導を主目的とした専門的研究分野における教育課程であり、２は、修士論文のテーマに限らず、人文科学を中心として広い学問領域を見渡す視野を得るための教育課程である。

## 【アドミッション・ポリシー（入学者の受入れ方針）】

「カリキュラム・ポリシー」に則って十分有効な教育を行い、「ディプロマ・ポリシー」に適う人材を養成するため、入学学生には下記の条項を満たすことを求める。

１．日本語・日本文学・英語・英米文学・歴史学いずれかの専門領域において、自ら研究テーマを設定できる
２．研究を予定しているテーマの資料処理に必要な基礎的言語能力（古文・漢文・英語ほか各国言語読解能力）を備えている
３．研究を予定しているテーマ及び関連領域について、学士課程修了相当以上の十分な知識・技能を有している
４．自らの研究テーマについて、口頭及び文章で明確な説明ができる

## 1　授業科目表

### ⑴　人文科学専攻（2017年度生～）

| 授業科目の区分 | 授業科目 | 単位数 | 配当年次 | 開講期 | 授業形態 | 履修上の注意 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 言語・文化・歴史探究分野 | 日本語特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 日本語特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 日本語特論Ⅲ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 日本語特論Ⅳ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 古典文学特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 古典文学特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 古典文学特論Ⅲ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 古典文学特論Ⅳ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 古典文学特論Ⅴ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 古典文学特論Ⅵ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 近代文学特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 近代文学特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 近代文学特論Ⅲ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 近代文学特論Ⅳ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 英語学特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 英語学特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | イギリス文化特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | イギリス文化特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | イギリス文学特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | イギリス文学特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | アメリカ文化特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | アメリカ文化特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | アメリカ文学特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | アメリカ文学特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 研究方法論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 研究方法論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 日本史特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 日本史特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 日本史特論Ⅲ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 日本史特論Ⅳ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 日本史特論Ⅴ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 日本史特論Ⅵ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 東洋史特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 東洋史特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 西洋史特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 西洋史特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 西洋史特論Ⅲ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 西洋史特論Ⅳ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |

| 授業科目の区分 | 授業科目 | 単位数 | 配当年次 | 開講期 | 授業形態 | 履修上の注意 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 言語・文化・歴史探究分野 | 日本語演習A | 2 | 1 | 前期 | 演習 | いずれかの演習ABCDをセットで履修 |
| | 日本語演習B | 2 | 1 | 後期 | 演習 | |
| | 日本語演習C | 2 | 2 | 前期 | 演習 | |
| | 日本語演習D | 2 | 2 | 後期 | 演習 | |
| | 日本文学演習A | 2 | 1 | 前期 | 演習 | |
| | 日本文学演習B | 2 | 1 | 後期 | 演習 | |
| | 日本文学演習C | 2 | 2 | 前期 | 演習 | |
| | 日本文学演習D | 2 | 2 | 後期 | 演習 | |
| | 英語学演習A | 2 | 1 | 前期 | 演習 | |
| | 英語学演習B | 2 | 1 | 後期 | 演習 | |
| | 英語学演習C | 2 | 2 | 前期 | 演習 | |
| | 英語学演習D | 2 | 2 | 後期 | 演習 | |
| | イギリス文学演習A | 2 | 1 | 前期 | 演習 | |
| | イギリス文学演習B | 2 | 1 | 後期 | 演習 | |
| | イギリス文学演習C | 2 | 2 | 前期 | 演習 | |
| | イギリス文学演習D | 2 | 2 | 後期 | 演習 | |
| | アメリカ文学演習A | 2 | 1 | 前期 | 演習 | |
| | アメリカ文学演習B | 2 | 1 | 後期 | 演習 | |
| | アメリカ文学演習C | 2 | 2 | 前期 | 演習 | |
| | アメリカ文学演習D | 2 | 2 | 後期 | 演習 | |
| | 日本史演習A | 2 | 1 | 前期 | 演習 | |
| | 日本史演習B | 2 | 1 | 後期 | 演習 | |
| | 日本史演習C | 2 | 2 | 前期 | 演習 | |
| | 日本史演習D | 2 | 2 | 後期 | 演習 | |
| | 東洋史演習A | 2 | 1 | 前期 | 演習 | |
| | 東洋史演習B | 2 | 1 | 後期 | 演習 | |
| | 東洋史演習C | 2 | 2 | 前期 | 演習 | |
| | 東洋史演習D | 2 | 2 | 後期 | 演習 | |
| | 西洋史演習A | 2 | 1 | 前期 | 演習 | |
| | 西洋史演習B | 2 | 1 | 後期 | 演習 | |
| | 西洋史演習C | 2 | 2 | 前期 | 演習 | |
| | 西洋史演習D | 2 | 2 | 後期 | 演習 | |
| 表現・実践・歴史活用分野 | 応用江戸文化論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | 必修 |
| | 応用江戸文化論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 出版事業特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 出版事業特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | マルチメディア表現特論 | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 論文の作法 | 1 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 応用日本語学 | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 都市文化振興特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 都市文化振興特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |

| 授業科目の区分 | 授　業　科　目 | 単位数 | 配当年次 | 開講期 | 授業形態 | 履修上の注意 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 表現・実践・歴史活用分野 | 実用英語特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 実用英語特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 英語教育論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 英語教育論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 通訳論とその演習Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 演習 | |
| | 通訳論とその演習Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 演習 | |
| | 翻訳論とその演習Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 演習 | |
| | 翻訳論とその演習Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 演習 | |
| | 現地調査特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 現地調査特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | メディア政治特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | メディア政治特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 異文化共生特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 異文化共生特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 歴史遺産解説特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 歴史遺産解説特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 歴史遺産解説特論Ⅲ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 歴史遺産解説特論Ⅳ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 歴史遺産保護行政特論Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 歴史遺産保護行政特論Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |
| | 文化財保護活動特論 | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 哲学と倫理の諸問題Ⅰ | 2 | 1・2 | 前期 | 講義 | |
| | 哲学と倫理の諸問題Ⅱ | 2 | 1・2 | 後期 | 講義 | |

## ２　履修上の注意

本研究科の修了要件は，２年間で32単位以上を修得し，修士論文の審査及び最終試験に合格することである。

⑴　２年以上在学して，前記のカリキュラムより自分の研究領域に従い，指導教員の指導のもとに，所定の単位を32単位以上修得すること。

⑵　修士論文に単位は付さないが，修士課程を修了するためには，修士論文を完成させ，論文審査及び最終試験に合格すること。

## ３　修士論文の作成等について（詳細は４月に掲示）

修士課程在学中の研究成果がこの論文によって問われることになる。論文の提出資格は特に設けていないが，論文作成のための時間等も考え，１年修了までに概ね20単位以上は修得しておくことが望ましい。

また，修士論文を提出しようとする者は，あらかじめ指導教員の承認を得た論文題目（所定用紙）を2017年４月上旬までに研究科長に届けること。（教務課に提出）

提出する論文作成の様式，枚数等は以下のとおりである。

**修士論文**

提出日時　2018年１月中旬

提 出 先　教務課

修士論文様式　　用紙はＡ４縦おき

【修士論文審査基準】

①論理・論旨は明快で，わかりやすく書かれているか。

②論文のテーマを研究する意義が，同分野の研究者に理解できる形で説明されているか。

③研究を展開するための問題設定は，適切になされているか。

④関係する旧来研究業績すべてに目を通したうえで，研究史の動向や問題点が十分整理されているか。

⑤対処が必要な見解・研究について，適切な対応措置がなされているか。

⑥資料の選択・批判・読解等の処理は，オープンな形で適切になされているか。

⑦問題設定から分析そして結論に至る道筋は，論理的に構築されているか。

⑧結論は，同分野の研究者も納得し得る適切なものか。

⑨残された問題や今後の研究への展望が，適切に提示されているか。

【修士論文作成スケジュール】

〔１年次〕

４月～５月；修士論文で扱う予定の分野に関連して，学士課程までに行った作業の整理

４月～７月；修士論文テーマ決定のためのリサーチと，指導教員との相談

７月初旬；上級生修士論文中間発表聴講

７月下旬；修士論文テーマの決定

８月～10月；旧来研究論文リサーチ

11月；研究史の整理と，旧来研究の動向および問題点のまとめ

12月初旬；修士論文構想発表

12月～１月；構想発表に対する意見を受けての具体的執筆計画立案

12月～３月；関係資料の収集と読解

〔２年次〕

４月～５月；関係資料の収集と読解

６月～９月；関係資料の読解と分析

７月初旬；修士論文中間発表

７月；中関発表に対する意見と資料分析状況を反映した執筆計画調整

９月～12月；修士論文執筆

１月中旬；修士論文提出

**人文科学専攻**

**日本語学・日本文学領域**

提 出 物　修士論文　３部・論文要旨　３部

論文枚数　400字詰め原稿用紙100枚以上（注は別）

ワープロで作成の場合は，縦書き50字×24行・横書き40字×30行

論文要旨　400字から800字（ワープロ可）

**英語学・英米文学領域**

提 出 物　修士論文　３部・論文要旨　３部

論文枚数　英文の場合は12,000語程度，和文の場合は400字詰め原稿用紙80枚以上（いずれも注は別）

ワープロで作成の場合は，

英文　65×25

和文　40字×30行

**史学領域**

提 出 物　修士論文　３部・論文要旨　３部

論文枚数　400字詰め原稿用紙80枚以上（注は別）

ワープロで作成の場合は，縦書き・横書きとも　40字×36行

論文要旨　400字から800字（ワープロ可）

**就実修士論文報の原稿**

提出締切　2018年3月中旬

提 出 先　教務課

提 出 物　修士論文の要点を中心に作成した論文　１部

様　　式　修士論文に準ずる

枚　　数　400字詰め原稿用紙30枚程度

（ワープロ可・その場合は電子媒体添付）